

学校図書館 Take Off!

No.25



本号の目次

読もう！楽しもう！知識の絵本①②

岩崎書店編集者 石川雄一さんと共に — P. 2-5

光村教育図書出版 鈴木真紀さんと共に — P. 5-6

コラム：会員のつぶやき 本・子ども・学校図書館 — P. 7

2019年度八王子市教育委員会への要望 — P. 8

西郷さんの犬の名前は？

知的に障害のある中学二年生男子の総合学習の研究テーマの中にあった問いです。上野恩賜公園にある西郷隆盛像の横に、細い耳をピンと立てた小型犬がいますよね。この生徒は図書や資料、インターネットで調べ、「ツン」という名の薩摩犬とつきとめ、まとめを作り、発表しました。みなさま、「ご存知でしたか？ 私は知らなかった！ 絵本『びっくりまっぼっくり』を読んで、自分でまっぼっくりを拾い、実験をした生徒もいます。成功したときの嬉しそうな顔！ 調べて、新しいことを知るのには、本当に嬉しいことです。

知的障害児の学校には図書館の設置がないことが多いです。東京学芸大学附属特別支援学校の図書館創りを始めて十年。小・中・高等部の資料支援、授業支援を他の学校や公共図書館の力を借りて、資料提供やブックトークを行い、また図書委員のおススメ本の発表を応援しました。学校図書館に司書がいて、図書は子どもたちに届き、学ぶ喜びに繋がります。

(田沼恵美子)

八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一九年十二月一日発行 第二五号

読もう！楽しもう！知識のえほん①

岩崎書店編集者 石川雄一さんと共に

令和元年6月5日 於 八王子市中央図書館

今年度の読書会は昨年引き続き「知識の本」をテーマに行いました。今回の読書会は岩崎書店編集部“いきもの係”石川雄一さんのお話を中心とした三部形式で開催されました。

第一部 ブックトーク 宮本 茂（本会会長）

「◇◇はなにからできている」

宮本氏は長年の小学校教職経験を基にしてブックトークを繰り広げられました。実際に雲を作る実験では感嘆の声があげられました。

- ① 導入：山村暮鳥の「おうい雲よ」の詩（「少女少女のための日本名詞選集4」あすなる書房）

↓『雲をみようよ』 トミー・デ・

パオラ（光村図書）↓『雲』 武田

泰男 技術評論社

実験 雲を作る実験↓ペットボ

トルを使って雲を作る実験をする。
ブックトークのテーマを提示する。



② 展開

問1 石は何からできているのでしょうか

↓花崗岩を見せる 身近な石に目を向けさせる。

『石は何でできている』西村寿雄 岩崎書店

石の見分け方とでき方が詳しく載っていることを確認する。

『採集して観察する海岸の石ころ』渡辺一夫

誠光堂新光社

問2 自分は何からできているのでしょうか

↓『かしい単細胞の粘菌』中垣俊之 福音館書店

↓『水草の森』今森洋輔 岩崎書店

単細胞の紹介をしている。

↓『細胞の形と働き』フラン・ボークウイル

ほるぶ出版

更に詳しく紹介をしている。

問3 地球上のすべてのものになっっているのは何

でしょう ↓雲も石も人間もみんな同じものから

できています。

『もしも原子が見えたなら』板倉聖宣 仮説社

③ まとめ

↓『小さな小さなせかい』かこさとし 偕成社

小さな世界を追求していくと、この宇宙の始まりにたどり着く。山村暮鳥の詩の音読から始まり、最後は宇宙の始まりについて考えるところまで展開する見事なブックトークでした。

第二部 参加者持ち寄りのショートブックトーク

(タイトルのみ紹介)

『もぐらはすごい』『この羽 だれの羽』『グーテンベルクのふしぎな機械』『つちはんみよう』『減っているってほんと!?!』『日本カエル探検記』『絵解きで調べた田んぼの生きもの』『かき水 天然水をつくる』『ちしきのポケット②』『じめんのうえとじめんのした』『タンポポ 風でたねを飛ばす植物』『はまべでひろったよ』『さすらいのハンター カマキリの生きかた』『ゴミ水路水族館』『しろくまのこえ』『恐竜が町にやってきました!』

『おしりのあなうみへいく』『よわいかみ つよいかたち』『磯魚の生態学』『おしえてフクロウのひみつ』『石はなにからできています』『この本をなめちやだ

メ!』『3万冊の本を救ったアリーヤさんの大作戦』『3びきのこぶた』『絵とき ゾウの時間とネズミの時間』

第三部 岩崎書店編集部

”いきもの係” 石川雄一さんのお話

「どんな本をつくと読者がよるこんでくれるだろうか」「どんな本をつくと子どもたちの好奇心が広がるだろうか」を常に考えていらつしやる石川さんのお話は大変興味深く、編集現場の熱い思いがよく伝わってきました。

① 岩崎書店の自然科学書

1947年『生命の起源』オパーリン著 山田坂仁 訳

1951年『少年の観察と実験文庫(こどもの観察と

実験文庫)』全100巻刊行開始

1956年『蟬の生物学』加藤正世 著

1981年『カラー版自然と科学』刊行開始

1987年『ファール写真昆虫記』全12巻

三谷英生 構成 小川宏 他写真

②「ちしきのポケット」先輩たちの仕事を受けついで、

1975年 「知識の絵本」刊行開始

1975年 『ちずあそび』吉村証子著 帆足次郎 絵

子どもたちの通学や遊びの行動範囲を

絵地図や航空写真、二万五千分の一の地

図を使って表現。

1977年『ひとのからだ』毛利子来著 帆足次郎 絵

学校図書館でよく活用された絵本。人のからだ

のしくみと働き。自分たちのからだの探検。

↓その後続々と刊行される。

1986年「絵本図鑑」刊行開始

『恐竜たんけん図鑑』松岡達英 作：絵

小島郁生 監修 その後続々と刊行

『林と虫たちの一生』『昆虫―小さな虫たちのせかい』

『くだもの王国』『海のさかな』『どうぶつのおしごと』

『ずかん』『森の草花』『やさいのずかん』『日本恐竜図

鑑』『野や山にすむ動物たち』『森のきのこ』『のはら

のずかん』『川のさかな』『水のいきもの かいかたそ

だてかた』『海辺の一日』『海にすむ動物たち』『マン

モス探検図鑑』『ぼくの自然図鑑』『鳥の観察図鑑』『鳥

の巣の本』『木の図鑑』『北の島だより』『メダカのか

いかたそだてかた』『世界の鳥の巣の本』

2005年 「ちしきのポケット」刊行開始

「ストーリー性を柱にふり幅を広く」する 既刊23点

2005年『土をつくる生きものたち 雑木林の絵

本』谷本雄治 文 盛口満 絵

・厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財

2017年『世界恐竜発見地図』ヒサ クニヒコ

絵：文 第65回産経児童出版文化賞フジテレビ賞

③『よみきかせ いきものしゃしんえほん』刊行開始

↓「子どものころの感動を思い出して」「誕生に焦点を
あてる」

2011年第1期 『うまれたよ！モンシロチョウ』

安田守 写真 小杉みのり 構成・文

全10巻で刊行開始、現在まで既刊35巻。現在第5

期全5巻製作中。

写真家 佐々木昆さん(1918〜2009)の『小

さい命』の世界をいまの子どもたちに届けたい。

④『さがしてあそぼう！かくれるいきもの しゃしん

えほん』全2巻

↓「よみきかせ いきものしゃしんえほんの姉妹編

として」擬態の様子を自然環境の中でとらえた本作り

を」

2017年『どこにいるかな?うみのさかなたち』

大方洋二 写真・文

『どこにいるかな?のやまのむしたち』

安田守 写真・文

⑤おはなしかがくえほん 既刊4巻

↓「自然科学に対する興味の入り口をひろげたい」

2016年『イモリくん ヤモリくん』

松岡達英さく・え 第22回日本絵本賞

以上を歴史的な流れに沿って大変わかりやすく整理してお話してくださいました。

石川さん、盛口満さん、宮本さん三氏の思いはどなたも同じ。「体験と知識がむすびついてこそ」でした。

【文責 大島】

読もう!楽しもう!知識のえほん②

光村教育図書出版 鈴木真紀さんと共に

7月3日、前回に引き続き八王子市中央図書館で読書会を行いました。計20名以上の参加があり、大変充実した時間となりました。

まず、会員の田沼恵美子さんが「はじまりの日」を

テーマに中学一年生を対象としたブックトークを行いました。

最初はガリレオ・ガリレイについて描いた『星の使者』(ピーター・シス\文・絵 原田勝\訳 徳間書店)という本、次の『伊能忠敬



―歩いてつくった日本地図―ではちよつとしたクイズもあり、参加者みんなで盛り上がりました。3冊目の『ゲーテンベルクのふしぎな機械』の紹介が始まると会場から「その本読みました」との声が聞こえ、発表者の方も嬉しそうでした。その後も素敵なブックトークは続き、最後の本は『はじまりの日』(アーサー・ビナード 訳、ポール ロジャース 文、ボブ デイラン 著、岩崎書店)これから新しい環境で頑張っていく子どもたちの背中を押してくれる、優しく力強いブックトークでした。

次に行われた参加者によるおすすめ知識のえほんの紹介では、多種多様な本が持ち寄られました。子どもたちに伝えたい『けんぼう』のおはなし』や『せんそうしない』。4年生の国語の教科

書（光村書店）に出てくるルイ・ブライユについて書かれた『6この点—点字を発明したルイ・ブライユのおはなし』。また、私たち人間の愚かさを描いたブラックユーモアな絵本『ヒトニツイテ』。参加者からは「ちょっと怖いけどおもしろい」との声があがっていました。



そして今回は光村教育図書編集者である鈴木真紀さんをお招きして、絵本作りについてのさまざまなお話もお聞きしました。

絵本部門を立ち上げる際には翻訳ものにすることを決め、「親が安心して子供に手渡せる本」であることとをコンセプトにはじまったそうです。鈴木さんはご自身の幼少期を振り返りながら「周りの人の言葉ひとつで子どもは変わってしまう。それくらい力があるということに気を付けて訳をつけていった」と仰っており、また科学絵本はユーモアと事実をきちんと分けることを大切にしながら言葉選びをされていました。

もちろんそのこだわりは絵にもおよびます。インクの色は国によって異なり、種類も実に豊富です。『1

つぶのおこめ』（デミ作／さくまゆみこ訳／光村教育図書）という絵本で使用する金色を決めるときに使ったサンプルを見せてくださいました。色が、色味や明るさの違う金色がたくさん載っているシートとなっております、



この中から選ぶということはどれほどの苦労だろうかと思いました。

最後に、「目立って売れるような本じゃなくても、長く読み継がれる本を作っていきたい」と言う言葉を聞いて、私たちは一時の流行りではなく本当に子どものためになる本を見定める力をつけなければいけないと思いました。

（文責 笠原）



『しましまかしてください』

林なつこ 作／絵 教育画劇

「今日しましま着てる人
！」こんな会話から読み
聞かせが始まります。

ぞうさんがしましまを
欲しくしているいろいろなお友
だち（はちさん、さるさ

ん、とらさん：）にしましまを借りにいきます。

誰もが「ちゃんと返してね」と言いながら貸して
くれるんです。優しいですね。さいごにはすてき
な友情が待っている優しいおはなしですが、しま
しまを少しずつ身に着けていくぞうさんがおも
しろくて、子どもたちは楽しそうに聞いていま
す。途中からは「ちゃんと返すかな？」の声か
ちらほら。子どもたちの律儀な気持ちに、読んで
いるこちらほっこりします。いろいろなつぶや
きを誘いながら、穏やかに時間の過ぎていく本で
す。低学年に。（M・S）



～本・子ども・学校図書館～ 会員のつぶやき



『やる気とか元気がでるえんぴつポスター』

金益見 / 文藝春秋

大阪市立東生野中学校夜間学級の生徒たちが書
いたポスターをまとめた本である。掲示されるので
ポスターと称するが、つまりは生徒が1年に1回書
く短い作文のこと。同学級は164名中在日コリアン
一世、二世が85%。女性に教育はいらないとの偏
見から学校に行けなかった世代の女性が92%を占
め、平均年齢は67歳（上は85歳）。紹介者である
金氏は中学校の近所に住む女性で、月替わりで掲
示されるポスターに「なんとなくいい気持ち」をもら
っていたという。

どこを開いても生徒たちの肉筆から生き生きと
肉声が聞こえてくる。どのポスターにも生きること
の喜びや学ぶ楽しみがあふれている。文字を得たこ



とで世界が広がった感謝の心が
迫ってくる。学校が楽しいとい
う心からの言葉に圧倒される。
「なんとなくいい気持ち」言い
得て妙である。（T・M）

令和元年度 本会の活動予定

連続講座 Y A読書会

①令和2年 1月26日(日) 14時

会場…八王子市生涯学習センター南大沢分館

第三学習室

内容…「YAってなに？」講師 大江輝行

自由の森学園学校司書の大江さんが、「ヤングアダルト」とはなにか、どんな本があるのかを楽しくお話します。

②令和2年 2月9日(日) 14時

会場…八王子市中央図書館 第二会議室

内容…参加者は中高生向けの本をもってご参加ください。図書館司書のブックトークもあります。

会員募集

正会員…本会のすべての活動に参加できます。

入会金5000円、年会費10000円です。

賛助会員…広報紙やイベントの情報をお届けします。

本会の活動を支援してくださる個人、団体の方。年会費一口 10000円です。

令和元年度
「八王子市立小・中学校
図書館の充実を願う要望書」

10月30日(水)15時から、今年度の要望書を携えて、教育長面談に行ってきました。安間英潮教育長、市教委から指導課長、指導主事、学校図書館サポートセンター担当主事。時間は20分。

今回の要望

1. すべての小・中学校への専門・専任・正規の学校司書を常駐させてください。
2. 現行の学校図書館サポート事業の堅持をお願いします。
3. 学校図書館を活用した調べ学習や読書指導に耐えうる資料の拡充をお願いします。
4. 「調べる学習体験講座」「調べる学習コンクール」などのような、日頃の授業での調べ学習を応援する取り組みの継続実施をお願いします。

☆☆編集後記☆☆

「学校司書」という呼び方が広まってきたとはいえ、未だ「職」として確立しているとはいえない状況です。片手間の仕事ではなく、理想をもって継続できる仕事、若い人が自信をもって次の世代に手渡せる仕事になるよう、発信していきたいものです。(お)